

高橋まさかず 市長活動報告

VOL.12

■発行日：2024年7月
■発行元：高橋まさかず後援会



秦野を変える 実現力。

「共働き子育てしやすい街ランキング」
秦野市が全国20位・神奈川県内2位の評価
日本経済新聞（令和5年12月発表）

存在感のあるまちづくりに向けて

日頃より市政運営にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。暑さ厳しい夏を迎え、くれぐれもご自愛いただきたいと思います。

さて、2期目の市政をお預かりして2年半が過ぎようとしています。「百年に一度の危機」とも言われた4年に及んだ新型感染症を乗り越え、社会経済活動もようやく本格化してまいりました。一方で、一昨年から続く円安や物価高騰は、今もなお、私たちの日々の暮らしや事業活動に大きな影響を生じさせていることから、市議会と連携しながら、地域社会を守り、活性化につながる施策を適時適切に実行しているところです。また、首都直下地震の切迫性が指摘される中、元日に発生した能登半島地震を自分事として捉え、被災地の復旧・復興に向けた懸命な努力に学びながら、市民の安全・安心のため、市民総ぐるみの防災・減災対策、地域コミュニティの充実・強化に取り組んでいます。

令和8年度には、秦野駅北口を起点とする県道705号線の整備完了が見込まれ、令和9年度には、新東名の全

線開通と秦野丹沢サービスエリアの開設も予定されています。この機会をとらえ、「表丹沢の魅力づくり」と「小田急4駅周辺のにぎわい創造」の取組みを一体的に進め、あわせて「女性とこどもが住みやすいまちづくり」を進めることにより、誰もが住みたい、働きたい、何度でも行ってみたいと思えるような魅力あふれる「全国屈指の森林観光都市」を目指してまいります。

来年1月1日に秦野市は、市制施行70周年を迎えます。これを契機に、「みんなでつなぐ 未来のHADANO」をコンセプトとして、先人たちが築いてきた「ふるさと秦野」に、より一層磨きをかけ、次の世代に引き継いでまいりたいと思います。

引き続き、初心を忘れず、ぶれずに「5つの誓い」に取り組み、「存在感のあるまちづくり」を着実に進めてまいりますので、皆様方には、市政に対する変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

秦野市長 高橋 昌和

“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクト（令和6年度の主な取り組み）

1. 健康で安心して暮らせるプロジェクト

■公共施設の照明設備LED化 ■水道・下水道施設の耐震化 ■文化会館の特定天井改修工事

2. 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

■産科有床診療所開設を機に宿泊型産後ケアを開始 ■こども医療費助成を18歳まで拡充
■公立放課後児童ホームの対象学年を6年生まで拡充

3. 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

■中心市街地活性化推進計画の策定 ■震生湖太鼓橋の架け替えと名称公募 ■電子地域通貨の導入

4. 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

■緑水庵の駐車場と多目的広場の整備 ■戸川区画整備事業・都市計画道路・矢坪沢の整備の推進

5. 新たな日常創造プロジェクト

■「書かない窓口」の導入 ■はだのマップステーションの開設

6. 移住・定住活性化プロジェクト

■はだの丹沢ライフ応援 ■移住お試し住宅「TANZAWA LIFE」「miraie」の運営

こども医療費助成18歳まで拡充 本年10月から



ぽけっと21

つぎつぎと新しい“生命”が誕生

『アクアベルクリニック』

～女性とこどもが住みやすいまちづくり～

子育て支援の充実

先ごろ国が発表した統計によると、令和5年の出生数が過去最少の72万7千人。一人の女性が生涯に出産する子供の数を示す合計特殊出生率も1.20で、過去最低を記録し、急速に進む少子化対策は急務になっています。

こうした中、秦野市では、「女性とこどもが住みやすいまちづくり」を重点的に進めています。昨年11月に開院した「アクアベルクリニック」では、本年5月末までに157名の新しい生命が誕生し、健やかに成長しています。

また、安心して妊娠・出産できる環境づくりの一環として、新たに産後ケア事業の宿泊型を開始するとともに、訪問型や日帰り型を合わせた利用回数の上限を3回から7回に拡充しました。

現在、中学生までを対象としているこども医療費の助成については、本年10月から対象年齢を18歳まで拡充し、すべてのこどもたちの健やかな成長を支援します。

公立放課後児童ホームについては、4月から対象学年を小学4年生から6年生までに拡充し、全ての児童を対象とした安全・安心な居場所づくりに取り組んでいます。

引き続き、「妊娠・出産から子どもたちが社会にはばたくまで」切れ目のない支援の充実・強化に努めてまいります。



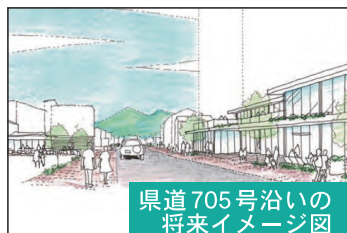
歩いて楽しい 歩いて暮らせるまちづくり

小田急線4駅周辺のにぎわい創造

小田急線4駅周辺のにぎわい創造では、各駅の魅力ある地域資源や特色を生かし、活力あふれるにぎわいを創造するため、駅周辺市街地における「歩いて楽しい、歩いて暮らせるまちづくり」に向け、地域と連携した取り組みを進めています。

◎秦野駅北口

秦野駅北口周辺まちづくりビジョンの実現に向け、拡幅が進む県道705号沿道における多世代交流拠点の整備に向けた検討や商業業務系施設の立地促進、水無川沿いの市道6号線などの公共空間の更なる活用などにより、中心市街地の活性化に取り組みます。



県道705号沿いの将来イメージ図



水無川沿いの将来イメージ図

◎弘法山

各駅間を結ぶ人の流れを生み出す取り組みでは、秦野駅、東海大学前駅、鶴巻温泉駅をつなぐ観光拠点となる弘法山公園の更なる魅力向上を図り、3駅周辺のにぎわい創造につなげるため、3月に策定した弘法山公園利活用方針に基づき、展望デッキをはじめ、バードサンクチュアリ、道標の整備に取り組みます。



弘法山展望デッキ(イメージ図)

◎震生湖

渋沢丘陵を活かしたにぎわい創造の推進では、四季折々の景色が楽しめる震生湖について、来訪者の安全・安心の確保と更なる魅力向上のため、太鼓橋を架け替えるとともに、新たな橋の名称を公募するなど、市民が愛着を持ち、親しみを感じてもらうための取り組みを進めます。



震生湖太鼓橋(イメージ図)

◎頭高山

秦野市の里山の西のシンボルでもある頭高山は、渋沢丘陵にある標高303mほどの小高い山で、春には八重桜が咲き誇る人気のハイキングコースになっています。今年3月には、頂上から表丹沢が一望できるよう、枯れたナラの木を伐採するとともに、その木を活用してヤマビルの「忌避効果」があるウッドチップ舗装や、階段・手すりの設置を行い、ハイカーが安心して歩くことができるよう整備しました。この頭高山を東の弘法山に並ぶ、秦野市の貴重な観光資源として位置付け、人と自然が共生した、魅力あふれる「全国屈指の森林観光都市」を目指してまいります。



頭高山ウッドチップ舗装

5月18日には、「第16回秦野市植樹祭」が開催され、多くの方にご参加いただき、イロハモミジやミツバツツジなど、6種の植樹をしていただきました。

新東名・246バイパスの最大活用

一昨年4月に開通した新東名秦野区間は、当初想定を上回る1日4千台を超える利用があります。令和9年度の新東名開通、秦野丹沢SAの開設を見据えた「はだの丹沢スマートインターチェンジ周辺のまちづくり」を進めることにより、地域のにぎわいを引き出し、安全・安心につながるインフラ整備を着実に進めるとともに、新東名高速道路の広域利便性を最大限活用した、新たな産業系の土地利用と企業誘致促進のための支援に取り組みます。

本年3月29日には、神奈川県知事から「秦野市戸川土地区画整理組合」の設立認可が得られ、事業が開始されました。また、スマートインターチェンジと市街地を結び、地域の基軸となる新たな「都市計画道路(菩提横野線)」と、

浸食等により荒廃している「矢坪沢」の整備に向けた地権者との用地交渉を進めるとともに、一部区間において、順次工事に着手します。



区画整理土地利用図

高橋まさかず市長活動報告

[1月1日] ニューイヤーウォークin弘法山2024



[1月10日] 秦野名水復活20周年祝賀会



[2月24日] 湘南ベルマーレ2024シーズンホーム開幕戦・始球式



[3月3日] 第4回はだの朝市まつり



[3月9日] パラクライミング日本選手権 秦野大会開会式



[3月24日] 第18回秦野市里山まつり



[4月14日] 八重桜の里花見会



[4月20日] 2024年ヴィーナスリーグ



[5月18日] 秦野市植樹祭



[6月22日] パサディナ市民・青少年訪問団ウェルカムバーベキュー

